

健康ワンポイントアドバイス

発行：十日町市中魚沼郡医師会

発行日：令和元年5月発行

第202号



心房細動について

津南町立津南病院 副院長 **林 裕作** 先生

高齢社会と共に心房細動という病気が増えています。心房細動とは不整脈の一つで、心房が小刻みに動き、けいれんするような病状を指します。心房細動そのものが、ただちに命を脅かすことはありませんが、心房細動があると、心房内に血のかたまり(血栓)ができて脳梗塞の原因となったり、心臓の機能が低下して心不全が引き起こされたりすることもあります。心房細動では、ドキドキする、息切れ、めまい、疲労感などの症状があらわれることがあります。しかし、無症状のことも多く、定期健診の心電図検査などで初めて見つかる場合も少なくありません。心房細動は、不整脈のなかでも最も多くみられ、欧米では40歳以上の4人に1人が心房細動を発症するといわれています。日本でも、生活習慣の欧米化にともない患者数は増え続け、2020年には心房細動の患者数は100万人をこえる見込みです。心房細動が原因でおこる脳梗塞を予防するためには、血液が固まりやすくなっている状態を改善し、心臓に血栓ができるのを防ぐお薬(抗凝固薬)を用います。抗凝固薬は、以前は、ワーファリンというくすりしかありませんでしたが、2011年より新規抗凝固薬(NOAC)が発売開始となり、現在は4種類のくすりが内服可能です。心房細動に対する薬物治療として2つの治療があります。1つ目はレートコントロールです。心房細動の有無にかかわらず心拍数をコントロールし、速くなりすぎないようにする治療法です。ジキタリス、β遮断薬等が使用されます。2つ目は、リズムコントロールです。抗不整脈剤を内服し、心房細動を停止させて不整脈そのものをコントロールする治療法です。色々な抗不整脈剤がありますが、副作用に注意が必要です。心房細動に対する新しい治療として、カテーテルアブレーションが注目されています。カテーテルアブレーションとは数本のカテーテルを心臓の中に進ませ、心臓の異常な心筋部を見つけ出して高周波通電を行う治療です。心房細動に対するカテーテルアブレーションは当初は発作性心房細動のみを対象としていましたが、その後、徐々に手技・方法が改良され、治療成功率が上昇し、最近では持続性心房細動に対しても行われるようになってきています。心房細動に対するカテーテルアブレーションは、まだ国内の限られた施設でしか施行されていませんが、心房細動でお悩みの患者さんは、一度主治医の先生にアブレーション治療につき相談されてみるのもよろしいかと思います。

